

学年だより

～修学旅行の感想文特集(1組)～

大阪市立文の里中学校
第3学年 第16号
2020. 10. 21 発行

今回の修学旅行は、コロナ禍ということもあり、色々な制限がかかる中で行われました。当初の予定では、2泊3日南信州で民泊体験がメインだったのが、1泊2日滋賀・京都で体験活動（ラフティング・びわこスカイアドベンチャー・和菓子作り）がメインのものに変更になりました。

修学旅行当日、両日ともほとんど雨、アメ、あめ、雫の中での活動でした。そんな中でも生徒たちは、一生懸命に楽しんで活動し、笑顔あふれる修学旅行になりました。それだけではなく、意義のある修学旅行になった様子が、感想文からも伝わってきます。担任の先生が選んでくださった感想文を掲載します。

『サプライズ』

今回の修学旅行は、どの行程も楽しく、とても充実した2日間を過ごすことができました。その中でも特に印象に残ったのは、夜のレクリエーション後の花火です。

1日目は、朝から雨が降っていて、スカイアドベンチャーがなくなってしまうなどの予定変更がありました。私はスカイアドベンチャーをとても楽しみにしていたのでとても残念でした。レクリエーションの間も、スカイアドベンチャーがなくなったショックは大きくテンションは少し低めでした。そうした中で夜の散歩に行くことになり、肝試しみたいでとてもワクワクしました。

ホテルの外は、田舎なだけあり、とても暗く、中には泣いている子もいるほどでした。



しかし、地元の方々が懐中電灯や車のヘッドライトで道を照らしてくださったおかげで安全に歩くことができました。

すると突然、夜空にとっても大きくて美しい花火が上がりました。上がった直後に大きな音が周囲に響き渡り、とても近くで上がっていることがわかりました。花火の音は全身を突き抜けていくよ

うで、何とも言えない気分になりました。花火が上がることは予定にはないサプライズだったので、とても驚き感動しました。

今回の修学旅行は、先生方をはじめとしたたくさんの方々に支えられ、また、何より私たちが全力で楽しんだことによって、かけがえのない思い出となったのだと思います。このことを忘れないで、中学校生活最後の体育大会も全力で楽しもうと思います。



『心の中の記憶』

今回の修学旅行で私はたくさんの思い出をつくることができました。

雨の影響で予定していたハイエLEMENTからローエLEMENTに変更され、少し気持ちが沈んでいました。しかし、スタッフの人々が私たちに大切なことを遊びを通して学ばせてくれました。そこで私が学んだことをこれからも生かしていこうと思いました。



最も心の中に残っているものは、サプライズで行われた花火です。レクリエーションで今日の予定はもう終わりだなと思って、少し名残惜しく感じていました。しかし、奇跡的に雨がやんで散歩に行くと言われ、先生に驚かされて、叫びながら歩いていると、急にカウントダウンが始まり数え終わるとたん花火が上がり、私は何と言っているのかかわからないくらい感動していました。コロナウィルスの影響でたくさん変更があった修学旅行でしたがとても楽しくて、たくさんの思い出をつくることができました。

『修学旅行の思い出』

私が修学旅行で1番心に残っていることは、2日目に行ったラフティングです。

始めは、雨に加えて風も吹いていて、とても寒かったのでバスに戻りたいという気持ちでいっぱいでした。ですが、ボートに乗りパドルを漕いでいると自然と雨風は気にならなくなり、寒さもいつの間にか忘れていました。

私の班のボートは、メンバーがいつも明るい人ばかりで、インストラクターの人も面白い人だったので、会話を聞いているだけでとても楽しかったです。

特に印象に残っていることは、ボートの上で行ったシーソーゲームと腹筋です。ボートを左右に揺らすシーソーゲームは意外と体重移動のタイミングが難しく、振り落とされないようにボートにしがみつくの必死でした。腹筋は、初めは川に落ちてしまわないか不安で体を少し倒すだけで精一杯でしたが、慣れてくると頭を水面につけられるようになりました。水面から頭を上げる時に、水が背中まで伝わってきてとても冷たかったです。

私の班は、男子が5人、女子が3人で楽しむことができるか不安でしたが、いざ始まってみるととても楽しかったです。

インストラクターの人のように、この修学旅行はたくさんの人に支えられていて、おかげで出発から到着まで休む暇なくずっと楽しかったです。私も将来、誰かの役に立てるような、誰かにありがとうと言ってもらえるような大人になりたいと思いました。

